

星合操の
秘密の図書館

星合 操



妖花の迷宮

大正10年

僕の家は
東京の九段に
屋敷を構える
男爵家で

僕は
職につく事もなく
勝手気ままな
暮らしをしていた

百合花は
母方の遠縁の娘で
気まぐれに手を出し
女にしたのは
良かったが

今では
後悔することもあつた

こう毎日
百合花の相手を
させられて
いたんでは
そのうち
死んでしまうぞ

——と
言いながら
足を向ける先は
カフェではなく
吉原の遊廓
だつたのだから



他の女で
気分転換を
したかったのだ

よつするに僕は
百合花に
食傷気味だったのだ



だが
そこで僕は
驚くべき
物を見た



え…!?

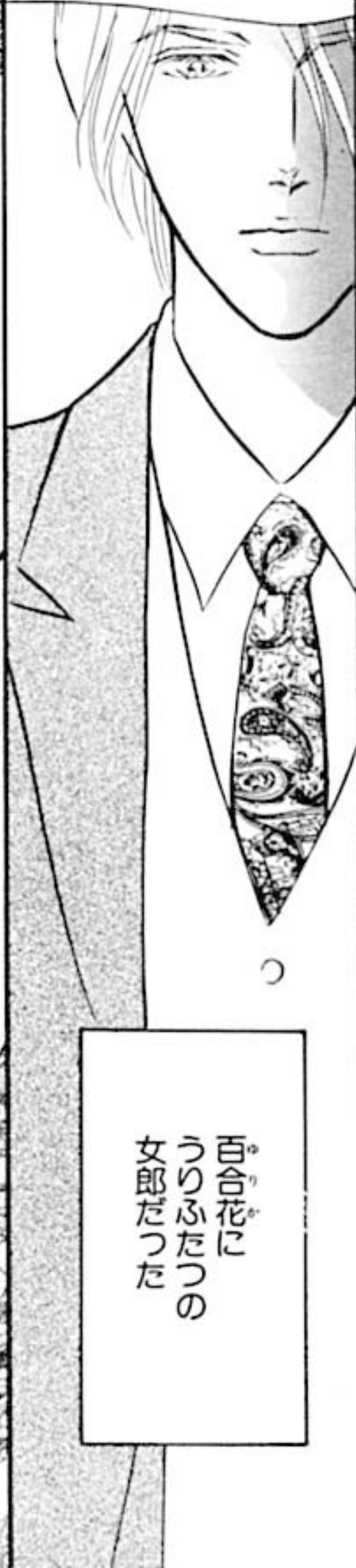


百合花…!?





そこにいたのは
この目を疑う程に



百合花に
うりふたつの
女郎だった





どうしたんです
めかしこんで
どこかに
お出かけですか？



おねぼうさん
今何時だと
思ってますの？

もう
帰って来たのよ



ん？



今日は
上野で
お花見の会
でしたのよ
あんまり
退屈だから
途中で帰って
来ちゃったわ



ははあ

いい男は
いませんでしたね



ああ：
そう
昨夜は
おもしろい事が
あって

何？
おもしろい事って？



織人さんなんて
自分1人で
遊びに行って
朝帰りなんて
なさるんですもの

何よ



私に
そっくりな女って？

遊廓の女
なんですけどね



いや…
あなたにそっくりな
女を見つけて



遊廓？

百合花の目が
好奇心に満ちて
輝いた

しまった！

言わなければ
良かったと
思ったが

あとの祭りだった

駄目ですよ

遊廓は
男しか行けない
所です



あら
私に見えない？

興味あるじゃない
私にそっくりの
女だなんて

あなたが
興味があるのは
遊廊でしょう？

そうよ

知りたいじゃない

私と
同じ顔をした
女郎だなんて

ねえ
どの女？

あの格子の中の
女ですよ

あの女を
買ってよ

よく
見たいのよ





え...?



あははは
織人さんたら
いじ悪ね



私とまったく
同じ顔じゃない



お蘭...
本当ね
なんて私に
似てること



お前
名は
なんと言うの？

...
お蘭と
申します